「笹川杯作文コンクール 2009」～中国語で応募～ 第５回優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

「“算術の神”生誕の地に暮らす」

安徽省　江春

我が家は、日本の“算術の神”程大位が生まれた都市―“国際観光都市”安徽省黄山市にある。そのため、私の生活の中にある日本の“エレメント”には“独自の特徴”が見られる。毎日、国内外の非常に多くの観光客が我が家の前を通って、“算術の神”程大位が生まれた場所「程大位故居記念館」を目指していく。

程大位（1533 年－1606 年）、“珠算の師”、発明家。彼が心血を注ぎ生涯をかけて編纂した珠算の大著『算法統宗』は、「中国全土に広く行き渡り」、「中国では 300 年のロングセラー」であるだけでなく、国境を越え、日本、朝鮮、世界各地へと遍く伝わっている。今でも毎年８月８日には日本国民の間でも“そろばんの日”記念パレードを盛大に行っている。パレードの最前列は巨大な算盤の模型で、それに続くのが“算術の神”として崇められる程大位の巨大な肖像画である。

なぜ、日本人は程大位を自らの“算術の神”としたのだろうか？それは、もし、程大位の『算法統宗』が日本へ伝わっていなかったら、後の和算もなかったからである。16 世紀の末、中国へ算術を学びにやってきた毛利重能が『算法統宗』を屯渓から日本に持ち込み、翻訳して教科書『帰除濫觴』を書いたという歴史的な事実がある。そして、彼は、自ら創設した「数学指南所」で『算法統宗』を日本の学生に解説し、中国の珠算を伝え、そこから和算に発展したということである。こうしたことから、中国人の程大位が日本の“算術の神”となったのである。

程大位の旧居は、黄山市の中心街である屯渓区の前園村渠東５号に位置し、明代の弘治年間に建てられた徽派の古民家で、既に 500 年余の歴史を有する。そこは程大位が生まれ育ったところであり、また、名著『算法統宗』が編纂、出版されたところでもある。そのため、平凡な旧居が脱俗でとても意義あるものとなった。旧居は「維新堂」を基本に、併設された「祭祖楼」と庭園の「賓園」の三つの主要な部分から構成されている。旧居の向かいにあるのが、珠算博物館として使用されている「覃思堂」である。

特筆に値するのは、「維新堂」の展示棚に非常に貴重な明代に刷られた日本版の古籍善本の全巻が陳列されていることである。珠算博物館「覃思堂」の展示棚には、“菱珠算盤”や“珠なし算盤”のような日本の逸品もある。

日本の“算術の神”が生まれた場所には、他にも多くの“日本のエレメント”があるということが分かった。日本の珠算史研究学会会長であり、著名な珠算家でもある鈴木久男先生は、1986 年９月 18 日、この地で「程大位没後 380 周年記念イベント」に参加して、“算術の神”の旧居を仰ぎ見た後、何度もここ訪問し、ひれ伏して崇めた。「程大位故居」の修繕と関連施設の改築などについては、何れも日本の珠算界から力強い援助が得られた。程大位の郷里の伝統的な民芸品“銀鎖算盤”は、日本の珠算史研究会ロゴマークの図案として用いられている。その年、程大位の旧居が発見されたというニュースについては、中国農業大学の数学部の余介石教授が 1966 年６月６日に文章を書いて旧居の写真を添付した報告書を書き、日本の『珠算界』雑誌を通じて世界に伝わって極めて大きな反響を呼んだ。“算術の神”というエレメントのため、黄山市の日本語学校はず

っと繁盛している…これらの“日本のエレメント”は、いつでも私の生活を豊かにして、私の人生を充実させてくれている。

現在、安徽省は日本の 10 都市と友好都市になっており、安徽省に投資する日本企業は 350 数社に達している。つい最近、“程大位珠算法”と“珠算”が正式に「国家級の無形文化遺産」の代表的作品の第 2 弾名簿に追加されたことに伴い、日本からやって来る友人が次第に増加し、「算術の神」生誕の地へ「聖地を巡礼する旅」をするだろうということが予想される。さらに、私が学んでいる日本語のレベルが弛みなく向上していくにつれ、生活の中の日本のエレメントはさらに多くなっていき、ますます素晴らしいものになることだろう。